

五常

変化する五常校区の住環境

さくらぎ街が誕生

UR都市機構では、五本松交差点北西の地（第4中学校の西側）に、さくらぎ街を建築し、従来からC地区にお住まいの方を10月中に受け入れ、新しい入居者の募集も始めています。C地区には約700世帯の方がお住まいでしたが、今回転入される方（戻り入居者）は150世帯強とのことですので、C地区から500以上の世帯が転出されたこととなります。



写真は建設中のさくらぎ街
(C20棟より写す・右は7丁目の新住宅)

編集発行
コミュニティ
協議会
広報委員会

人口
7,198人
世帯数
2,686世帯
18年8月現在

変貌するC地区

UR都市機構の話ですと、さくらぎ街の建築で従来の公団の住宅は取り壊し、土地を民間に売却することです。既にA・B地区で行なわれている民間での造成工事がこのC地区でも始まります。

取り壊しと売却は本年十月以降、約1年間の計画で実行されますので、二年後には、これまで以上に環境が大きく変わることが予想されます。

当五常校区では、従来からの住宅地では高齢化の進展と世帯交替が進行する一方、社宅の土地売却による民間のマンションの建設で若い世代の住民が増加し、年代的にも構成が変化してきています。

C地区の再構築は、これまでの住民構成の変化に更に拍車をかけることとなります。これまで以上の努力で地域としての一体化を推進し、校区としての地域力の向上に取り組む必要性があります。

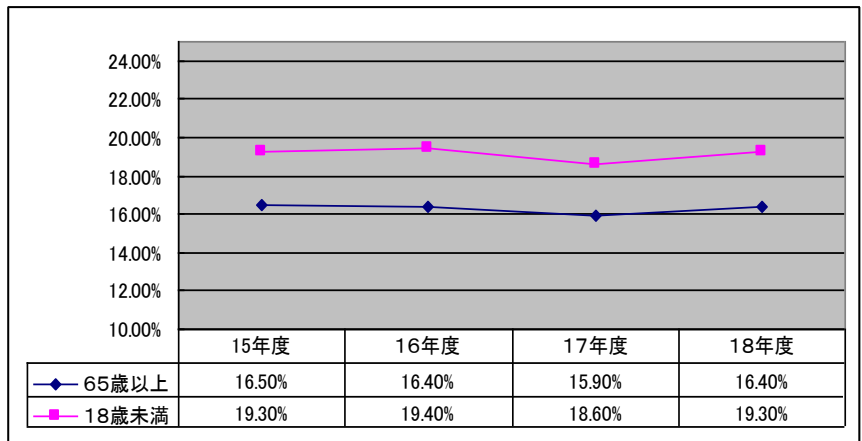
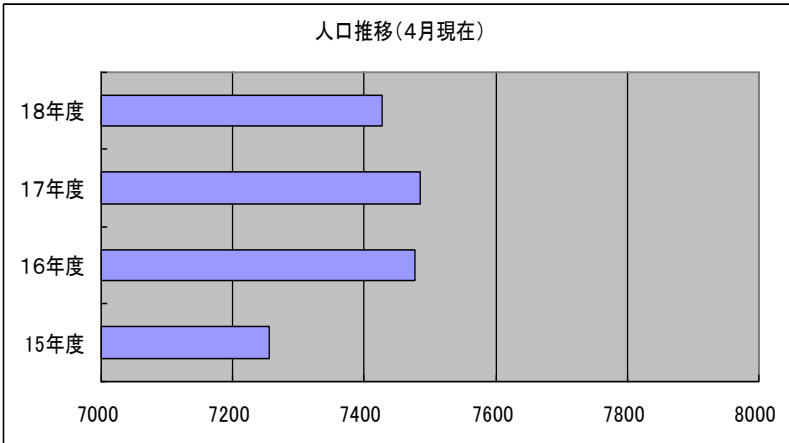
C地区の再構築に伴う当面の課題は

工事期間中の安全対策と小学校西門の道路の確保です。

広い範囲が無人の地となりますので、防犯対策が不可欠です。また、通行の多い地域ですので交通安全面での配慮も欠かせません。特に、西門に至る道路は整備公団の所有ですので、それが使えなくなると西門の利用が出来なくなり、通学だけでなく、避難路についても再検討が必要になります。

数値が語る校区の変化

C地区の人口減少を七丁目や八丁目でのマンション建設による人口増でカバー、全体としては十五年比約二百人弱の減少になっている。しかし、二年後にはC地区の再開発で世帯数が急増、人口八千人以上の大校区になると予想される。



六十五歳以上の方の割合がそれ程増加せず、逆に十七年度以降十八歳未満の割合が増加傾向を示しています。

転出入に伴う人口増と年齢構成の変化に対応して、校区の新しい方向づけと対策が要請されています。

公園の美化と活用を

今年、活動の一環として公園の美化を取り上げています。校区内には、以楽園公園をはじめ、市が管理する十一の都市公園があり、三つの公園では愛護会が結成されています。愛護会がない処でも自治会の区域内の公園は、周辺の住民の方の配慮と努力で公園の美化が保持され、住民の憩いの場所として、また、子どもの遊び場として活用されています。

しかし、**伊加賀山公園と北谷公園**に問題があります。

これまで街灯の設置など防犯への配慮を行なってきましたが、美化と活用面では課題山積です。今年、公園の美化と防犯の観点から、地面に近い枝を切り取り、見晴らしを良くするように協議会から市に働きかけをしました。

今後は、隣接の自治会の方のご理解とご協力で美化に努め、憩いの場としての活用に心掛けていきたいものです。

編集後記

さくらぎ街の南側のバス通りに歩道が新設されます。この歩道は枚方市と都市機構の協力で実現出来ましたが、その裏には七丁目にお住まいの方の環境に対する強い想いとそれを受止めた自治会長の五年に及ぶ連携プレイがありました。

環境の改善・整備には、長期間の根強い取り組みが必要です。

自宅周辺の環境はそこにお住まいの個人にとって最大の関心事ですが、近隣の方も想いも同じです。環境に対する広い視野と譲り合いの心が必要です。

環境の改善・整備は住民の方のお互いの理解と分かち合いの心で実現されるものとの実感をした次第です。(編集子)



写真は工事中の歩道